

1. 調査報告概要表

作成日 2007年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1070501190
法人名	(有)ひまわり介護サービス
事業所名	グループホーム 太田サンフラワー
所在地	群馬県太田市台之郷307 (電 話) 0276-60-2942

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年10月15日

【情報提供票より】(平成19 年9 月 27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	17	年	7	月	1	日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人			
職員数	8 人	常勤	7人	非常勤	1人	常勤換算	7.5人

(2)建物概要

建物構造	(木造) 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	(有) 48,000 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日(1. 100円)			

(4)利用者の概要 (9 月27 日現在)

利用者人数		9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1		1	名	要介護2	2	名
要介護3		2	名	要介護4	3	名
要介護5			名	要支援2		名
年齢	平均	78.2 歳	最低	61 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	堀江病院 小林内科医院 小林内科 有坂医院 おおや歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの広い敷地内に系列の事業所が設立されており、利用者は人との交流に広がりの中で暮らしている。食事は利用者の何よりの楽しみであり、食は『生きる源』でもある。食材も豊富に取り入れており、美味しく食べることができるように味付けにも配慮し工夫されていた。施設長・管理者・職員は利用者一人ひとりを尊重し、気持ちを理解して、各人のペースに応じたケアサービスを目指すことを共有し、暮らしを支援している。利用者はのんびりと自由にその人らしく暮らされている様子が見受けられた。地域との交流を大事に密接に、地域と共に利用者を支援する協力体制がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者は日常的に金銭に触れる機会(買い物時に支払う、財布を持つ等)を持つように改善されている。相談や苦情の受付の意見箱の設置や担当者、連絡先等を掲示してある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的を全員に伝え、全職員で取り組むようにした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的(2ヶ月に1回)に開催しており、事業所から運営状況を報告し、参加者から質問や意見を聴いている。認知症の講話や地域のスタンブラーの協力要請があり、事業所として地域に協力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には家族に参加してもらい意見や要望を聴いている。意見箱を設置し、来訪時に何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりに配慮している。視覚障害の方に畳みの生活を採り入れたり、畳から立ち上がりやすい方法を家族の意見を反映させながら工夫している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の清掃活動や祭り・生き生きサロン等に利用者と職員が参加している。また、事業所の敬老会に地域の方が参加したり、そば打ちに来てくれたり、事業所のイベントを手伝ってくれるなどの交流が行なわれている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設当初から運営理念に地域との関係性を盛り込んであり、地域と共に利用者の生活支援をする取り組みが行なわれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や申し送り等で理念を語り、管理者と職員は共有している。また関わりの振り返りの時にも、理念に触れるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の清掃活動や祭り・生き生きサロン等に利用者と職員が一緒に参加している。また、事業所の敬老会に地域の方が参加したり、そば打ちに来てくれたり、事業所のイベントには手伝いをしてくれるなどの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を全員に伝え、全職員で取り組むようにしている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に開催しており、事業所から報告を行い、参加者から質問や意見を聴いている。認知症の講話や地域のスタンプラリーの協力をしてほしい等の意見が出ており、事業所としても地域貢献に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を折にふれ伝え、気軽に相談している。また、地域包括支援センターとの連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の暮らしぶりや健康面・金銭面等の報告は月1回の支払い日に来訪された時に報告している。また、必要に応じて電話でも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族に参加をしてもらい意見や要望を聴いている。意見箱を設置したり、来訪時に何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも配慮している。視覚障害の方が豊から立ち上がりやすい方法等を家族の意見を反映させながら工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動時には利用者への影響を最小限に抑える努力をし、一週間位の引継ぎ期間を持つように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修(救急対応や介護技術等)を行い、外部研修への参加もしている。研修報告はカンファレンス・申し送り等で伝達を行い、職員全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し交流をしている。また、近隣の事業所と利用者・職員共に交流(イベント参加等)を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらっている。やむを得ずすぐ利用になった場合には、家族やケアマネジャーからの情報を基に安心感を持って生活が送れるように配慮しながら支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、日々、利用者から教えてもらう場面がある。支援する側・支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が送れるように場面づくりや言葉かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを基に、日々のかかわりの中で把握に努めている。言葉や表情などから真意を推し量ったり、さり気なく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聴き、反映させるようにしている。職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い介護計画に反映をさせている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリングを行い日々のケアに反映させているが、介護計画の期間に応じた見直しの設定期間が長いため、モニタリングの内容が介護計画に反映されにくい。	○	介護計画の見直し設定期間を短縮して、月1回のモニタリングを反映させるようにしてはどうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院送迎や介助・買い物・理美容院等の支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人や家族の希望に対応している。また、状態によっては協力医の往診も受けられる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に事業所の方針を家族に説明している。状態の変化に伴い、話し合いをその都度もち意志確認をしながら支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所内で利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ等の研修を行い実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活を職員の都合に合わせるのではなく、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者に喜びや楽しみをもたらすものと考え、「美味しいものを楽しく食べる」ということを大切にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認したり、タイミングを見て支援をするようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶を入れる・洗濯物をたたむ・食器を拭く・テーブルを拭く等で利用者一人ひとりの力を発揮してもらっている。ぶどう狩り・花見・買い物・そば打ち会・バーベキュー等を行い、生活に変化をもたらしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の気分と希望に応じて、日常的に散歩や庭に出てお茶をするなど戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず安全面に配慮し(センサー設置等)自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は年1回行っており、2007年は11月に実施する計画がなされている。地域協力体制は自治会や運営推進会議で要請している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし記録を行い、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みコーナー・ソファの設置・テーブルには季節の花が飾られ、台所からは食事の準備やご飯が炊かれる匂いが漂う等の生活感や季節感を採り入れた落ち着いた環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具・テレビ・孫の絵を飾る・身体機能に合わせた補助具等、利用者一人ひとりの居心地の良い居室になっている。		